

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和 7 年度 7 月号

○ 概要

- (1) 令和 7 年度 7 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は 7,361 億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+1.2%）で、処方箋 1 枚当たり調剤医療費は 9,838 円（伸び率+5.1%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,990 億円（伸び率▲0.0%）、薬剤料が 5,356 億円（伸び率+1.6%）、薬剤料のうち、後発医薬品が 975 億円（伸び率+1.0%）であった。（→P.4,5）

- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋 1 枚当たり薬剤料 5,509 円（伸び率+3.4%）を、処方箋 1 枚当たり薬剤種類数、1 種類当たり投薬日数、1 種類 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.78 種類（伸び率+1.0%）、28.7 日（伸び率+4.5%）、69 円（伸び率▲2.0%）であった。（→P.8,9）

- (3) 内服薬の薬剤料 4,122 億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲20 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 39 その他の代謝性医薬品の 807 億円（伸び幅+31 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の+48 億円（総額 586 億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	4,122 億円 （▲20 億円）	39 その他の代謝性 医薬品(807 億円)	21 循環器官用薬 (593 億円)	42 腫瘍用薬 (586 億円)
0 歳以上 5 歳未満	16.8 億円 （▲2.0 億円）	44 アレルギー用薬 (4.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.1 億円)	61 抗生物質製剤 (2.6 億円)
5 歳以上 15 歳未満	99.3 億円 （▲0.8 億円）	44 アレルギー用薬 (30.9 億円)	11 中枢神経系用薬 (29.9 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(8.1 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,549 億円 （+8 億円）	39 その他の代謝性 医薬品(305 億円)	11 中枢神経系用薬 (291 億円)	42 腫瘍用薬 (192 億円)
65 歳以上 75 歳未満	821 億円 （▲36 億円）	39 その他の代謝性 医薬品(190 億円)	42 腫瘍用薬 (154 億円)	21 循環器官用薬 (131 億円)
75 歳以上	1,636 億円 （+11 億円）	39 その他の代謝性 医薬品(303 億円)	21 循環器官用薬 (285 億円)	42 腫瘍用薬 (236 億円)

- (4) 処方箋 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,838 円（伸び率+5.1%）で、最も高かったのは高知県（11,687 円（伸び率+4.5%））、最も低かったのは佐賀県（8,659 円（伸び率+7.2%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは滋賀県（伸び率+9.6%）、最も低かったのは山形県（伸び率+2.7%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注1)}	91.3 %	+5.0 %
薬剤料ベース（新指標） ^{注2)}	78.0 %	+10.0 %
後発品調剤率	79.9 %	+0.4 %

注 1) 〔後発医薬品の数量〕 / (〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕) で算出。

注 2) 〔後発医薬品の薬剤料〕 / (〔後発医薬品のある先発医薬品の薬剤料〕 + 〔後発医薬品の薬剤料〕) で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+1.0 %	+13.9 % (10 歳以上 15 歳未満)	▲4.5 % (70 歳以上 75 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース、新指標）	78.0 %	87.5 % (100 歳以上)	65.4 % (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	91.3 %	93.8 % (100 歳以上)	90.1 % (15 歳以上 20 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	842 億円 (+21 億円)	21 循環器官用薬 (260 億円)	11 中枢神経系用薬 (152 億円)	23 消化器官用薬 (95 億円)
0 歳以上 5 歳未満	6.6 億円 (+0.2 億円)	44 アレルギー用薬 (3.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.3 億円)	62 化学療法剤 (0.3 億円)
5 歳以上 15 歳未満	16.2 億円 (+0.3 億円)	44 アレルギー用薬 (9.1 億円)	11 中枢神経系用薬 (2.1 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.0 億円)
15 歳以上 65 歳未満	291 億円 (+3 億円)	21 循環器官用薬 (72 億円)	11 中枢神経系用薬 (71 億円)	44 アレルギー用薬 (27 億円)
65 歳以上 75 歳未満	167 億円 (▲1 億円)	21 循環器官用薬 (63 億円)	11 中枢神経系用薬 (22 億円)	23 消化器官用薬 (19 億円)
75 歳以上	362 億円 (+18 億円)	21 循環器官用薬 (125 億円)	11 中枢神経系用薬 (57 億円)	23 消化器官用薬 (49 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~59）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,303 円	1,695 円(北海道)	1,116 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+4.9%	+7.1 % (香川県)	+0.8 % (岩手県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	91.3 %	94.6 % (沖縄県)	88.8 % (東京都)
新指標による後発医薬品割合（薬剤料ベース）	78.0 %	83.4 % (鹿児島県)	73.1 % (徳島県)
後発医薬品調剤率	79.9 %	83.5 % (沖縄県)	76.8 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和7年度7月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。